

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

事業所名 グループホームあした葉
作成日： 平成 22年 3月 6日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要 する期間
1	4	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議において、外部評価、利用状況、介護 保険制度、看取りなどを報告し、助言や意見を運営 に活かしているが、メンバーの参加できる日程の調 整に苦勞し、開催回数が少ない。	22年度は2ヶ月に1回の定期開催を実施する。 構成メンバーを検討し、堅苦しくなく参加しやすい雰 囲気をつくる。	開催月を、奇数月の第3金曜日の13:30～に決め て実施する。回覧板を利用し、地域で興味のある方 が自由に参加できるように工夫する。	12ヶ月
2	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 面会時、電話での連絡などで意見を聞くようにはし ているが、定期的な家族会の開催や積極的に意見 を引き出すまでには至っていない。	定期的な家族会の開催を行い、もっと自由に意見を もらえる機会を多くする。	家族会については年間行事計画を提示し、年2回(4 月・10月)に避難訓練とあわせて同日開催とする。	12ヶ月
3	26・54	○チームでつくる介護計画とモニタリング 計画作成担当者が中心となり、職員間で話し合い介 護計画を作成し、定期的にモニタリングを行っている が、介護計画を家族といっしょに立てることはでき ていない。	モニタリング時に家族の意見がとりいれられるような 仕組みをつくり、職員と家族が一体となって利用者 の安心できる環境と生活を構築する。	居室担当者が中心となり、家族を巻き込んで、より 温かみのあるお部屋作りや本人の思いや家族の希 望をきけるような体制をつくる	12ヶ月
4	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 看取りの経験を通じ、家族や医師の協力がなければ 実践できないことを学んだ。あした葉での重度化 も深刻になってきている。現状は、利用者及び家族 中心に考えており、職員の心身の負担を考慮してい ない。	今後起こりうる問題を想定し関係者等と話し合い、 家族・職員両面での連携を図り、無理のないゆとり のケアを実践する。	第1段階として、職員の意見の吸い上げを行い、問 題点をまとめる。	3ヶ月
5	35	○災害対策 利用者、職員とで年2回通報・避難訓練を実施してい るが、地域・家族を巻き込んだ、夜間想定訓練や備 蓄品の準備などが望まれる。	最低限の備蓄品の確保と、緊急時の連携体制を整 える。	どうしても地域や家族の方に遠慮して、施設だけで の対策を考えていたが、現実的に緊急時は人手が 必要となることを踏まえ、自治会との連絡体制の整 備を図る。また水・缶詰等の備蓄品を準備する。	2ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。